

長岡市内遺跡発掘調査報告書

雉子打場遺跡

羽黒窯跡

滝谷蛇山遺跡

2 0 0 5

長岡市教育委員会

例　　言

- 本書は、長岡市深沢町地内で計画された市道建設と、澁谷町地内での砂利採取及び住宅団地の計画に伴って平成16年度に実施した遺跡の確認調査の記録である。
- 調査にかかる経費は、国庫補助金と県費補助金の交付、および砂利採取と住宅団地造成事業者の協力を得ている。
- 確認調査は、長岡市教育委員会が主体となり、駒形敏朗（雄子打場遺跡・羽黒窯跡）と鳥居美栄（澁谷蛇山遺跡）が文化財保護法上の調査担当者として行った。
- 本書の作成は、調査担当者の駒形と鳥居が各担当遺跡ごとに分担した。
- 羽黒窯跡で参考に図示した須恵器と土師器の大半は、古市長二郎氏（深沢町）の採集資料である。掲載を快諾された古市氏に感謝申し上げます。
- 雄子打場遺跡・羽黒窯跡で、挿図及び写真図版の遺物番号は同一番号とした。
- 確認調査での出土遺物や写真及び測量図面等の記録類は、長岡市教育委員会が保管している。
- 確認調査には、閑雅之氏をはじめ多くの方々からご教示を賜り、また、国土交通省北陸地方整備局国営越後丘陵公園事務所、中越興業株式会社、高野不動産株式会社、越後交通工業株式会社、深沢町連合町内会などからご協力を賜った。ここにお礼を申し上げます。

目　　次

I 深沢町地内遺跡確認調査	1
1 調査の経緯	1
(1) 調査に至るまで (2) 調査の経過	
2 環境	2
(1) 地理的環境 (2) 歴史的環境	
3 雄子打場遺跡	3
(1) 調査 (2) 土層序 (3) 遺構 (4) 遺物 (5) まとめ	
4 羽黒窯跡	8
(1) 調査 (2) 土層序 (3) 遺物 (4) まとめ	
II 澁谷蛇山遺跡確認調査	12
1 調査の経緯	12
(1) 調査に至るまで (2) 調査の経過	
2 環境	13
(1) 地理的環境 (2) 歴史的環境	
3 調査の結果	16
(1) 砂利採取計画地 (2) 宅地造成計画地 (3) 土層序 (4) まとめ	

I 深沢町地内遺跡確認調査

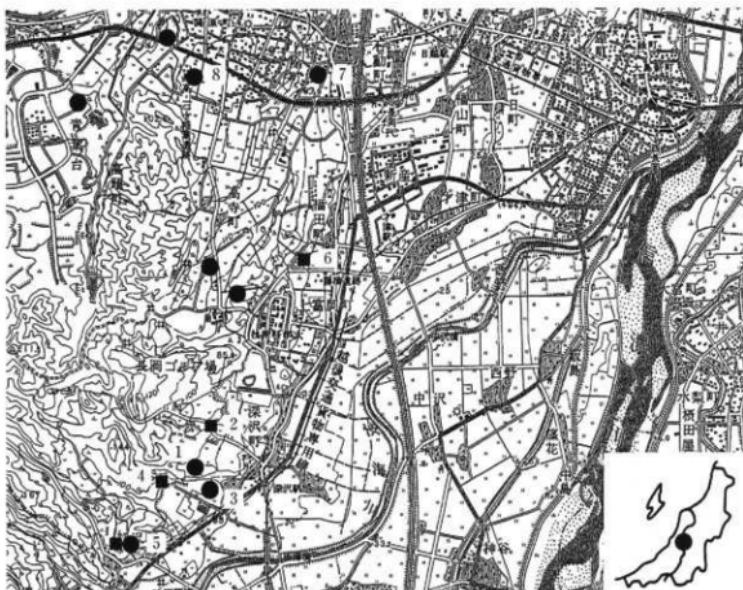
1 調査の経緯

(1) 調査に至るまで

信濃川左岸に位置する長岡市深沢町は、背後に河岸段丘が発達し、縄文時代中期から後期の大集落跡の岩原遺跡をはじめ、数多くの遺跡が所在している。このたび、この深沢地内で北の国立長岡技術科学大学付近から南の親沢町へ通じる市道の建設が計画された。市道は、雉子打場遺跡（縄文時代草創期・中期）と羽黒窯跡（奈良時代）の2遺跡付近を通過する計画であり、このため長岡市土木部と遺跡の保存方法について協議を重ねた。協議の結果、平成16年秋に雉子打場遺跡と羽黒窯跡を対象に確認調査し、確認調査の成果に基づいて再度調整を図ることにした。なお、市道計画法線の用地は民有地のため、地元の町内会などを通じて土地所有者の協力を要請した。

(2) 調査の経過

調査用地の協力が得られ、調査事務所の設置と調査機材を搬入するなどの準備作業を終え、確認調査は、平成16年9月21日から開始した。調査は羽黒窯跡から始め、9月28日に雉子打場遺跡に移りながら、バッケホーと人力で発掘を進めた。そして、10月13日に出土品や調査機材などを整理室に運び込んで終了した。



第1図 雉子打場遺跡・羽黒窯跡及び周辺の縄文中期遺跡（●）・窯跡（■）位置図（1/50,000 長岡）

- 1 雉子打場遺跡 2 羽黒窯跡 3 岩野原遺跡 4 岩野原窯跡 5 蔭山遺跡・窯跡
6 萩堤窯跡 7 南原遺跡 8 馬高遺跡

2 環境（第1図・第2図）

（1）地理的環境

確認調査の対象である堆子打場遺跡と羽黒窯跡は長岡市深沢町にあり、長岡市のはば中央部を北流する信濃川の左岸に位置する。深沢町の集落と信濃川との間には小国町方面からの渋海川が信濃川に向かって流れている。長岡市の西部丘陵地帯には、4面の河岸段丘が発達し、2遺跡は洪積段丘の上富岡面に位置している。堆子打場は南の岩野原遺跡とを隔てて流れる藏王川に面した段丘平坦面に集落が、羽黒窯跡は上富岡面と上位段丘の閑原面との傾斜地に窯跡が所在するものと思われる。標高はいずれも約56mから65mで、土地は畠や荒地である。

（2）歴史的環境

堆子打場遺跡は、縄文時代草創期の丸ノミ形石斧と中期の土器や石器が採集されている遺跡で、南の藏王川を挟んで大集落の岩野原と対峙している。信濃川左岸の河岸段丘は広い平坦面を有し、馬高（中期）、三十塙場（後期）、藤橋（晩期）、それに岩野原（中・後期）といった縄文時代の大規模な集落遺跡があり、その周辺には笹山や南原などの小規模な遺跡がある。

羽黒窯跡は、奈良時代（8世紀後半期）の須恵器生産の窯跡で、近隣には同じ奈良時代の須恵器窯の笠山窯、岩野原窯、羽黒窯、蒲堤窯の4ヶ所が位置している。この地区的窯跡は段丘崖を利用しておらず、閑野窯跡などの信濃川右岸に所在する須恵器窯跡が、沢を利用しているとの対照的である。また、羽黒窯跡の段丘崖付近で遺物が採集できる範囲が広いことや、採集遺物に土師器があることなどから、古代の集落が存在する可能性もある。



第2図 調査地周辺の地形図（1/10,000）

3 雄子打場遺跡

(1) 調査（第5図）

雄子打場は、藏王川に面して広がる河岸段丘の平坦面にあり、採集資料から主に縄文時代中期の遺跡であるが、縄文時代草創期の石器（丸ノミ形石斧）も1点採集されており、草創期の資料の確認も調査の目的として実施した。

遺跡は、上地の所有者から協力が得られた箇所—特に荒撫地や休耕した畑地を中心にして2×4mを原則とした調査用グリッドを設けて主に人力で発掘し、茅場などの荒撫地は必要に応じてバックホーで発掘した。しかし、藏王川に面する段丘崖に近い遺跡南側は、杉林として利用されているため、確認調査の対象範囲は杉林の手前までとした。これは調査を進めるうちに、遺構・遺物が確認されたグリッドが杉林に隣接していることや、藏王川を挟んで対岸にある岩野原遺跡など、長岡市内の縄文時代の遺跡は段丘縁辺部に面することが多いことなどから、杉林に雄子打場遺跡が広がっていると推測したものである。

・雄子打場遺跡調査概要表

G	規 模	深 度	地山土	遺 構	遺 物	特記事項
1	2×4	40	黄褐色土	なし	縄文土器・磨製石斧など	特になし
2	2×4	25	黄褐色土	なし	なし	特になし
3	2×4	35	黄褐色土	なし	なし	地山は砂混じり
4	2×4	15	白黄褐色土	なし	縄文土器	地山が白濁
5	2×4	10	白黄褐色土	なし	打製石斧	特になし
6	2×4	15	白黄褐色土	なし	なし	特になし
7	2×4	40	黄褐色土	なし	なし	特になし
8	2×4	15・35	黄褐色土	なし	なし	地山が東に傾斜
9	2×4	20	黄褐色土	なし	縄文土器	特になし
10	2×4	40	黄褐色土	なし	縄文土器・磨製石斧など	特になし
11	2×4	35	黄褐色土	ピット	縄文土器・磨製石斧など	特になし
12	2×4	15	黄褐色土	なし	縄文土器	特になし
13	2×4	25	黄褐色土	なし	なし	特になし
14	2×4	25	黄褐色土	なし	なし	特になし
15	2×4	30	黄褐色土	なし	なし	特になし
16	2×4	3	黄褐色土	なし	なし	特になし
17	2×4	25	黄褐色土	なし	なし	特になし
18	2×4	40	黄褐色土	なし	なし	特になし
19	2×4	35・40	黄褐色土	なし	なし	地山面が凹凸
20	2×4	30	黄褐色土	なし	なし	特になし
21	2×4	35	黄褐色土	なし	なし	特になし
22	2×4	25・55	黄褐色土	なし	なし	溝状の落ち込み
23	2×4	15	黄褐色土	なし	須恵器	羽黒窯からか

規模はグリッド（単位：m）、深度は地山面までの深さ（単位：cm）

(2) 土層序 (第4図)

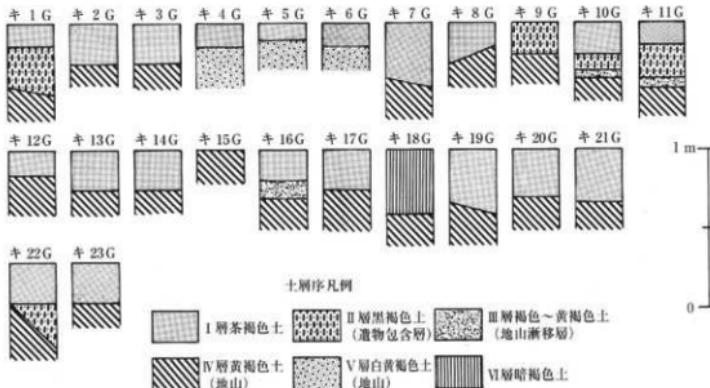
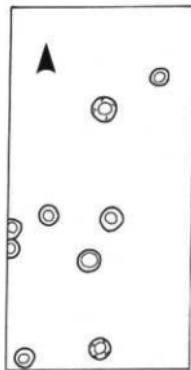
信濃川左岸の河岸段丘上の縄文遺跡は、表土（耕作土）・黒褐色土（遺物包含層）・地山（黄褐色土）の3土層序が基本的な土層である。雉子打場で遺物が出土したグリッド（1・9～11G）の土層序は、おおむね表土・黒褐色土・地山（黄褐色土）の堆積である。しかし、遺物が出土しても遺物包含層の黒褐色土が確認できなかったグリッド（4・5・12・13G）があるなど、一様の土層堆積ではない。また、遺物が少量出土した4・5Gの地山は白黄褐色土であり、多く出土した9Gなどとは若干異なる。これは湧水点の位置が高いため、粘質を帯びて乾燥した段丘の地山の黄褐色土が変質したものと思われる。遺物が出土しなかった14～21Gは、遺物包含層の黒褐色土は見られないとや遺物が出土した地点から若干離れていること、それ地山面までの深度が若干深いことなどから、遺跡の範囲外と思われる。それに対し、杉林に近い22Gは黒褐色土が堆積した溝状の落ち込みが見られた。遺物は出土していないが、発掘グリッドの位置などから22Gも遺跡の一部と考えられる。

(3) 遺構 (第3図)

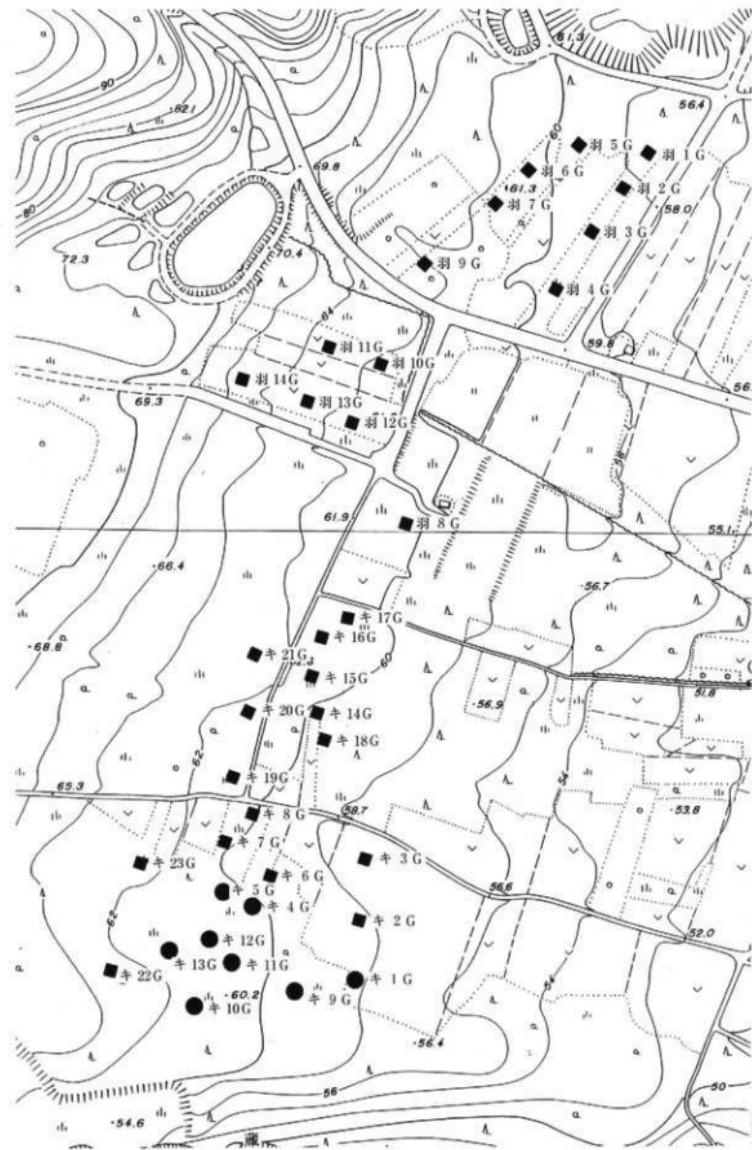
今回の確認調査で、縄文土器や石器などが出土した調査グリッドは1・4・5・9・10～14Gの8ヶ所ある。そのうち、竪穴住居跡や貯蔵穴など、縄文時代中期に見られる遺構が確認されたのは藏王川に面する杉林に近い11Gの1ヶ所であった。11Gは、縄文土器や磨製石斧などの遺物が多く出土した調査グリッドで、10基ほどのピットが確認された。ピットを発掘したところ、7基のピット覆土から縄文中期の土器が出土した。ピットの規模は直径・深さがともに30cm内外である。調査範囲が8mと狭いこともあり、ピットの配列に規則性は見られないが、縄文時代中期の柱穴などの可能性が高い遺構である。

その他、明確な遺構ではないが、前述の22Gでグリッドの北西側に溝状の落ち込みが確認された。深さは確認面から30cmほどで、底面が台形状を呈していた。性格は不明である。

第3図 遺構平面図 (1/60)



第4図 雉子打場遺跡土層柱状図 (1/60)



第5図 雄子打場遺跡・羽黒窯跡調査グリッド図 (1/2,500)

キ = 雄子打場遺跡調査グリッド 羽 = 羽黒窯跡調査グリッド

(4) 遺物 (第6・7図)

今回の確認調査で出土した遺物は、縄文土器、石皿・磨石・磨製石斧などの石器と、石器の剥片である。出土位置は、雉子打場遺跡と岩野原遺跡とを隔てている南側の蔵王川に続く杉林の近くに設定したグリッドからである。

なお、雉子打場遺跡は、縄文時代中期の土器や石器のほかに、縄文時代草創期の石器（丸ノミ形石斧）も採集されていたが、今回の調査では草創期に土器や石器の出土は確認できなかった。

石器 (第6図) 確認調査で出土した石器は、石皿4点、磨石14点、磨製石斧4点（小形磨製石斧1点を含む）と、石器製作過程での剥片である。

第6図1・2は磨石で、1は楕円形、2はやや円形から楕円形を呈し、全体的に摩滅痕が見られる。4・6は石皿の破片で、図面の上下面に摩滅痕が確認できる。石皿、磨石とともに安山岩を使用。

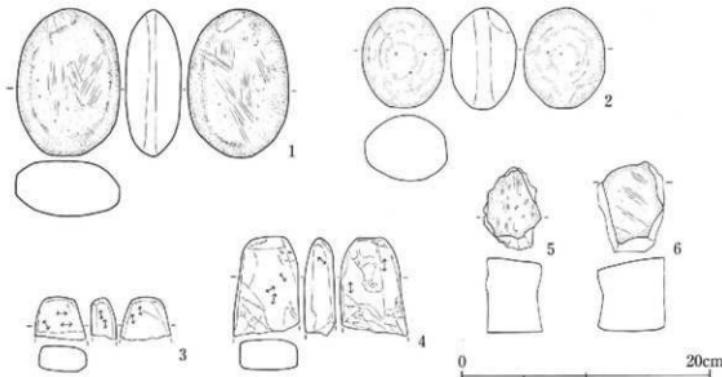
磨製石斧は4点出土したが、完存品はなかった。図示した2点の磨製石斧は定角式磨製石斧の基部破片である。石材は不詳。

石器以外に、石器製作途中で剥がれた石の剥片がある。中には玉顎も混じっており、石顎の破片と考えられる。

縄文土器 (第7図) 縄文時代中期前葉から中葉の土器が、南の杉林の近くから出土した。主な出土グリッドは1・9・10・11Gで、100点以上出土したのは1・10・11Gである。特に遺構が確認された11Gでは約400点の縄文土器が出土し、次いで11Gより杉林に近い10Gで約250点が出土している。

第7図1～3は爪形文が施された口縁部破片で、1・2は平らな口縁に沿って爪形文が見られ、3は山形口縁の口縁と頸部に相当する部分に爪形文がある。6・7も爪形文が施されている土器片である。4は上下の半隆起線文と蓮華状の刻みがみられる土器で、5は縄文の原体を口縁に沿って押圧した撫糸側面圧痕文の土器で、いずれも中期前葉の土器である。また、12～14は木目状撫糸文が施された中期前葉の土器である。

10は隆起線で渦巻きを描き、隆起線の脇に刻み目を施している。11は半隆起線で曲線と直線を組み合わせた文様を描く、中期前葉から中葉にかけての文様構成の土器である。15は深鉢形土器の頸部付近の破片



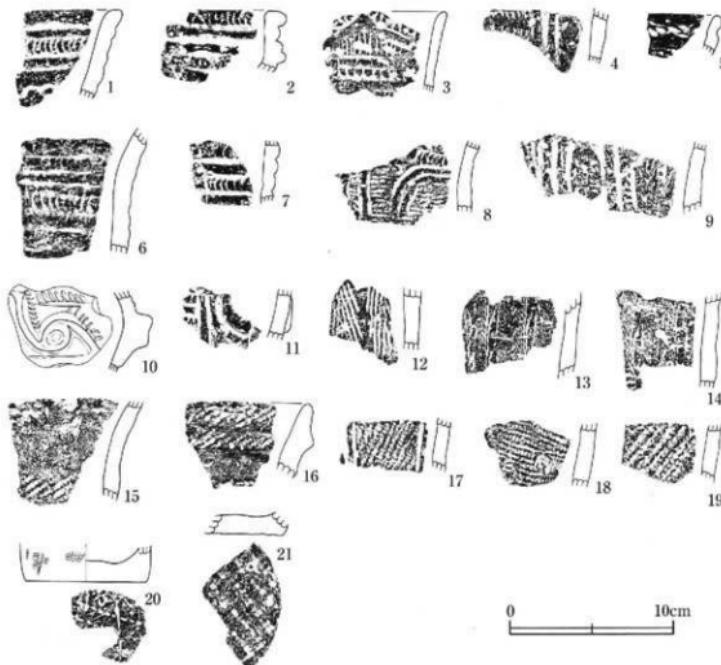
第6図 雉子打場遺跡出土石器 (1/4)

で、縄文が施されていたが、拓影上部は土器面が剥落し、無文のようになっている。16は頸部が若干降りし、頸部から口縁に縄文が施されている。17は幅広い半隆起線間に縄文が充填された中期中業の土器である。18・19は縄文の胴部破片である。20・21は底面に網代などの痕跡が見られる土器である。21は網代痕、20は幅広い網代痕か。

(5)まとめ

雉子打場遺跡確認調査は市道の建設計画に伴うもので、調査地は計画法線及びその周辺を対象として調査した。土地所有者等の理解を得て設定した調査グリッド（原則 $2 \times 4\text{ m}$ ）は23ヶ所で、そのうちの8ヶ所から縄文土器などの縄文時代中期の遺物が出土した。調査地の南側で、藏王川に面したところに広がっていた杉林は発掘を伴う調査はできなかった。杉林などのように調査ができなかつたところもあったが、今回の調査地に限ってではあるが、雉子打場遺跡の範囲は次のように推察される。

縄文土器や石斧などの縄文時代中期の遺物や、柱穴と思われるビットが確認されたグリッドの位置は、南側の9～13Gに偏っていた。特に11Gは柱穴と思われるビットと縄文土器や磨製石斧が出土した。遺構や遺物が集中して出土した南側は、藏王川を隔てて縄文時代中期から後期の大規模集落の岩野原遺跡が位置している。これまでの経験から、雉子打場は、4・5G付近を北側の限界として南の藏王川に面したところに広がっているものと考えられる。



第7図 雉子打場遺跡出土縄文土器 (1/3)

4 羽黒窯跡

(1) 調査 (第5図)

調査は任意の個所に 2×4 m のグリッドを設定して進めた。発掘は人力を主に行った。その結果、発掘では遺構・遺物は確認されなかった。表土面で須恵器片が多數採集された10~14Gでも、発掘では遺構・遺物はまったく確認されなかった。

(2) 土層序 (第8図)

段丘崖を横切って東西に走る道路を挟んで北側に設定したグリッドの土層序は、表土と地山（黄褐色土）面との間に、黒褐色土が見られるところ（2・3・5G）もあるが、いずれも小石が混じっていた。道路から北側の地区は、全体的に小石が混じっていた。道路から南側の10~14Gは表土と地山だけで、遺物包含層と思われる黒褐色土は見られなかった。また、南側で、南北道路の東側に設けた8Gは表土面から礫層だけであった。上面が削平された可能性もある。

(3) 遺物 (第9・10図)

ここに紹介する資料は、古市長二郎氏採集資料と、調査期間中に地表面での採集資料である。なお、8世紀後半と考えられている羽黒窯跡の遺物の分類は、「長岡市史資料編1 考古」によった。

坏蓋（1~10） つまみがあるA類（1~6・8~10）と、つまみのないC類（7）がある。坏蓋A類は1類（1・3~5・8~10）と2類（2・6）に細分される。天井部がやや平らなA類は、天井部から肩付近若しくは端部付近までヘラケズリされている。口縁端部はやや垂直気味に折れ、つまみはやや扁平で中央部が突出するものが多く、6のような中央部の突起が低いものは少ない。天井部がなで肩で丸みを帯びたA2類も、つまみの状態や調整痕などはA1類と同じであるが、若干A2類のほうが端部の直径が小さい。つまみがない坏蓋C類は、A類に比べて天井部の平らな範囲が広く、口縁端部に向かって棱線をもって折れながら、口縁端部はやや外側に開いている。天井部は回転糸切りの痕跡が見られる。

・羽黒窯跡調査概要表

G	規 模	深 度	地山土	遺 構	遺 物	特記事項
1	2×4	20	黄褐色土	なし	なし	小砂利混じり
2	2×4	35	黄褐色土	なし	なし	小砂利混じり
3	2×4	60	黄褐色土	なし	なし	小石混じり
4	2×4	3	黄褐色土	なし	なし	特になし
5	2×4	30~60	黄褐色土	なし	なし	東へ地山傾斜 小砂利混じり
6	2×4	50	黄褐色砂	なし	なし	小砂利混じり
7	2×4	45~50	黄褐色砂	なし	なし	東へ地山傾斜 小砂利混じり
8	2×4	0	礫層	なし	なし	表土から礫層
9	2×4	35	砂礫層	なし	なし	表土からビンなどが混じった埋め土
10	2×4	38	黄褐色土	なし	なし	特になし
11	2×4	25	黄褐色土	なし	なし	特になし
12	2×4	35~40	黄褐色土	なし	なし	東へ地山傾斜
13	2×4	20	黄褐色土	なし	なし	特になし
14	2×4	30	黄褐色土	なし	なし	特になし

有台坏（11～13） 口縁が逆ハの字状に直線的に開くもの（11）と、口縁がわずかに外反するもの（12）とがある。口縁が逆ハ字状に開く11の方が、外反する12より口縁の直径及び高さとも大ぶりである。いずれも底面の切り離しは回転ヘラ切りによる。13は底部付近の破片であり、分類はできない。

無台坏（14～25） 無台坏は、一般的にはヘラ切り技法で切り離された平底から逆ハの字状に口縁が開き、口縁端部は丸くなっている。ヘラ切りの底面を除いてロクロによるナデ調整痕が良く見られる。また、底面と体部との境は、棱をもつものより、丸みを帯びて立ち上がる方が多い。

蓋（第10図26） 壺蓋と同じような擬宝珠のつまみを持ち、口縁部がほぼ直角に折れて、口縁端部が短く若干外側に開く形態の蓋である。口径は壺蓋に比べて小さいことや、口縁の立ち上がりが深いことなどから、壺の蓋と考えられる。

壺（27） なで肩の肩からくの字に屈曲して胴部にいたる大形の破片である。肩には自然軸が見られる。

横瓶（28・29） 横瓶の口縁部と思われる破片（28）と、依形の胴部の口縁部を蓋した部分の破片（29）である。口縁部破片は、頸部からくの字に折れて外に開く口縁で、外面の端部は下方に削ぐような形で、内面はナデの状況を残して頸部のくびれにつづく。依形胴部の口縁を蓋した部分の外面は自然釉薬がかかり緑色に変色している。

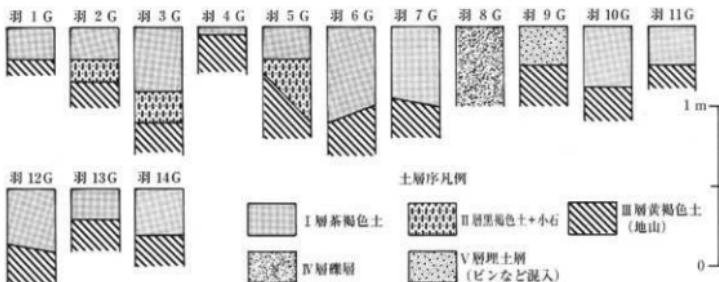
甕（30～37） 内外面に叩き目がある甕の破片を集めた。内面の叩き目は同心円か円弧状で、外面は平行叩き目（30・31・36）と格子目状の叩き目（32～35）が多い。37は外面が格子目状叩き目であるが、内面はナデで叩き目を消している。

写真5～46は、須恵器窯が窯体内で破裂して、窯壁とともに接着した状態の破片である。この地区に須恵器窯が存在していることを証明する資料として、ここに掲載した。

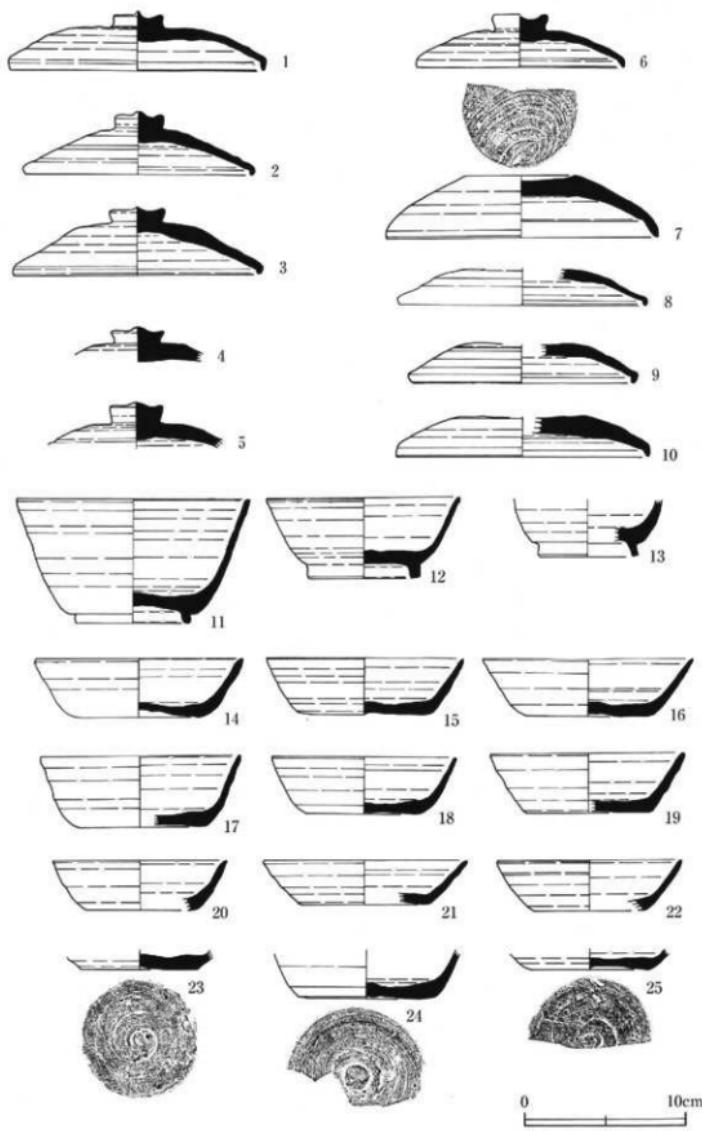
土師器（38～42） 生焼けの須恵器の無台坏ではなく、明らかに土師器の坏である。須恵器の無台坏に比べて底部から口縁部への立ち上がりがやや大きく開いていること、底面は回転系切りによる切り離しである点が異なる。

（4）まとめ

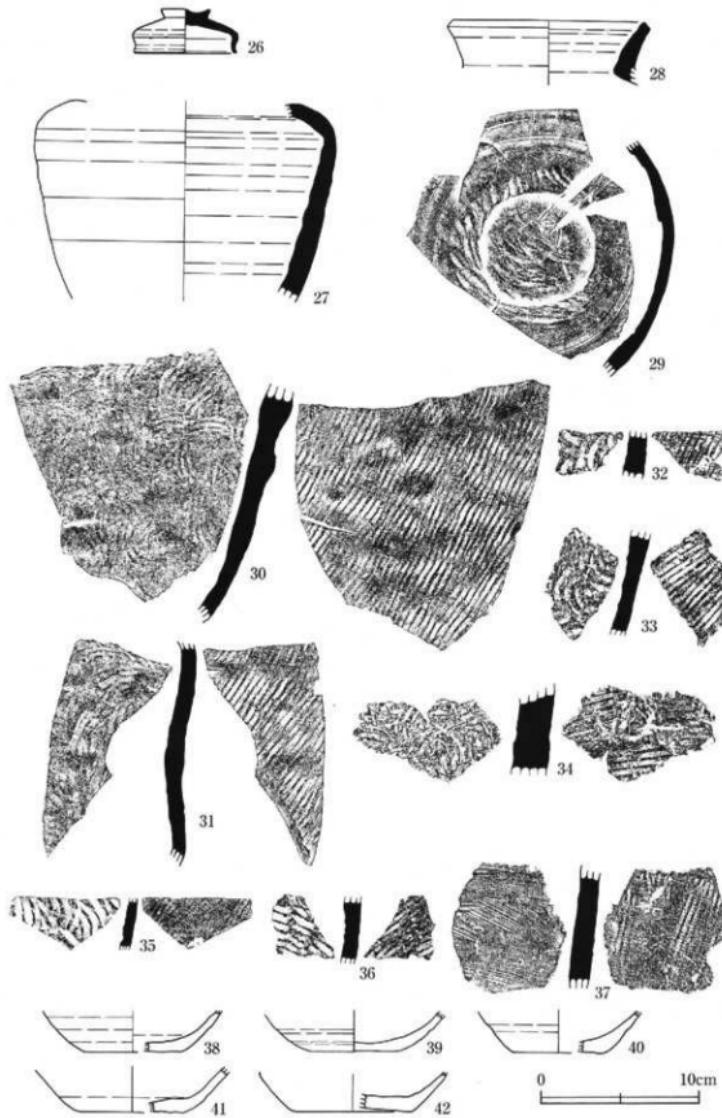
調査対象地は須恵器窯からの灰や焼成中に破损した須恵器を廃棄した灰原の可能性が第一、次に土師器の坏や鍋などが採取されていることから須恵器生産の工房もしくは小集落の可能性が考えられる。だが、調査グリッドから遺物は出土せず、遺構も確認されなかった。調査中に訪れた研究者と現地で検討したところ、調査対象地は遺跡の範囲から外れているとの結論に達した。



第8図 羽黒窯跡上層柱状図（1/60）



第9図 羽黒窯跡採集須恵器 (1 / 3)



第10図 羽黒窯跡採集須器・土師器（1／3）

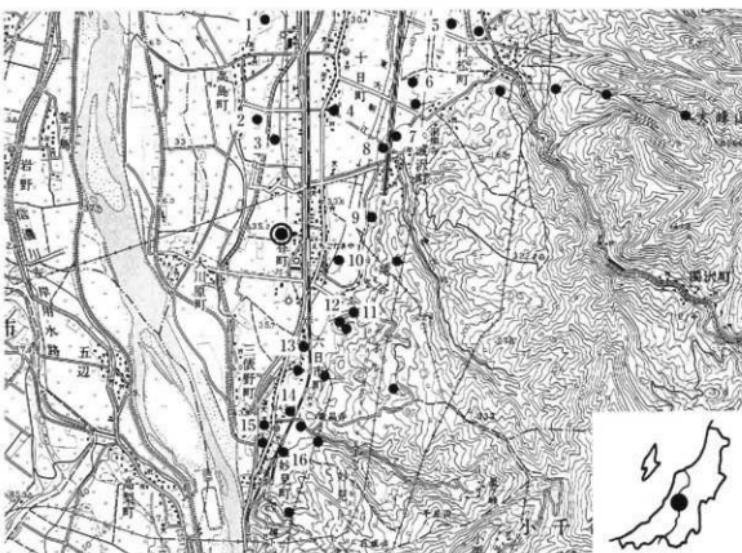
II 滝谷蛇山遺跡確認調査

1 調査の経緯

(1) 調査に至るまで

砂利採取 平成16年7月6日、砂利採取業者から長岡市教育委員会（以下、市教委）に砂利採取計画地における周知の遺跡の有無について照会があった。遺跡地図と照合すると、計画地の一部が滝谷蛇山遺跡の範囲に含まれていたが、遺跡本体とみられる畠部分から一段下がった水田部分にあたり、計画地に遺跡が広がっている可能性は低いと考えられた。そのことから、事業者は砂利採取計画認可申請の事務手続きを進めるが、掘削前に市教委が砂利採取業者からバックホーの提供を受けて遺跡の範囲確認調査を行うこととし、遺跡が広がる場合は遺跡範囲では砂利採取を行わないとして双方が了解した。

宅地造成 平成16年9月2日付け事務連絡文書により、長岡市都市整備部都市開発課から開発計画に関する事前説明会を開催の連絡があった。宅地造成及びそれに附随する道路、公園などの整備が計画されていたが、滝谷蛇山遺跡の約半分の範囲が含まれていた。9月8日に実施された開発計画者による事前説明会の終了後、直ちに開発計画者と市教委とで遺跡の保存方法について協議を行った。その結果、平成16年秋に市教委が確認調査を行い、調査結果に基づいて事業計画の見直しも含めた協議を再度行うこととした。確認調査のための土地所有者の承諾を得る際などに開発計画者や地元町内会などに協力を要請した。



第11図 滝谷蛇山遺跡（●）及び周辺の遺跡位置図（S = 1/50,000）

- 1 高山城跡 2 舞台遺跡 3 植ノ木遺跡 4 白倉館跡 5 村松三百刈遺跡 6 仲田遺跡
- 7 早田北遺跡 8 早田西遺跡 9 滝谷前山遺跡 10 ドノ坪遺跡 11 阿部山遺跡
- 12 下山遺跡 13 三百刈C遺跡 14 六日市町遺跡 15 外新田遺跡 16 ソウギバ遺跡

(2) 調査の経過

砂利採取計画に伴う確認調査 9月29日、砂利採取業者からバックホーの提供を受けて砂利採取計画地内の調査を行なった。2m×4mの調査トレンチを2ヶ所設け、10cm程の厚さで土を少しづつ剥ぎ取り、1Tでは採取される砂利層の上面まで掘削した。調査は1日で終了した。

宅地造成計画に伴う確認調査 調査事務所の設置や調査機材搬入といった準備作業後、10月12日から確認調査を開始した。調査対象地の北西部から、畠部分は人力で、水田部分はバックホーによって発掘を進めていった。調査終盤に差し掛かっていた10月23日、平成16年新潟県中越地震が発生した。長岡市南部に位置する滝谷町周辺は市内でも被害が大きく、作業員が避難生活を余儀なくされた。また、調査担当者も災害対応業務に従事しなければならず、現地での確認調査の続行が不可能となった。それまでの調査トレンチの土層堆積状況などを検討した結果、未調査の範囲に遺跡が広がる可能性は低く、確認調査の継続は不要と判断し、現地における調査は10月22日をもって終了とした。調査機材等の撤収は、災害対応業務の合間に行った。

2 環境

(1) 地理的環境

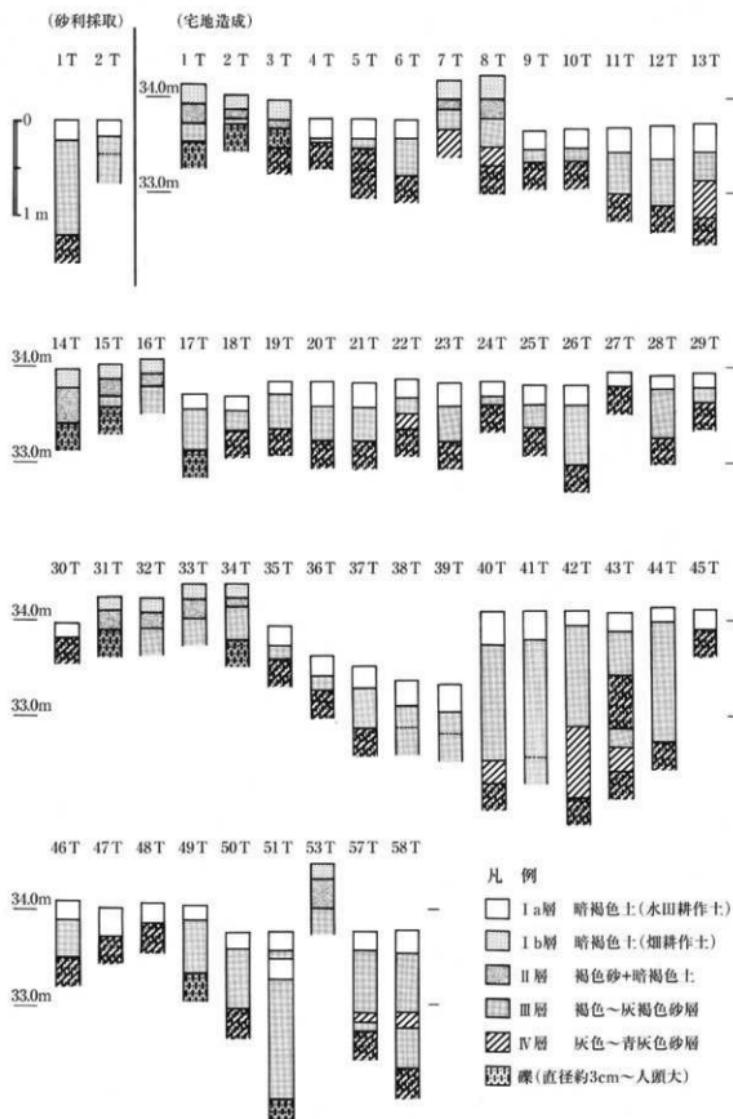
滝谷蛇山遺跡が所在する長岡市滝谷町は市域南部の信濃川右岸にある。遺跡は、東山丘陵から700mほど西に位置し、滝谷町の集落の西側にある畠地及び水田に立地する。遺跡の周辺は信濃川が形成した沖積地で、主に水田として利用されているが、点在する小さな微高地が畠地として利用されている。遺跡の西側やその周辺などで砂利採取が行われていることから、多量の砂礫が堆積する信濃川の氾濫原であったことがうかがわれる。遺跡周辺の標高は約34mである。



第12図 滝谷蛇山遺跡周辺の地形図 (1/10,000)



第13図 滝谷蛇山遺跡調査トレンチ図 (S = 1/2,500)



第14図 土層柱状図

(2) 歴史的環境

滝谷蛇山遺跡は、新潟県教育委員会の埋蔵文化財包蔵地カードによると、土師器・須恵器が表採されており、平安時代の遺跡とされている。長岡市滝谷町の周辺では遺跡はあまり分布していないが、滝谷町の南にある六日市町や妙見町では、外新田、ソウギバなどの縄文遺跡や、弥生時代の阿部山、奈良・平安時代では三百刈C、六日市町、下山などの遺跡が所在している。それらの遺跡は東山丘陵やその裾部の低位段丘などに立地している。また、滝谷町の北東の村松町や渡沢町付近では丘陵裾部の扇状地上に縄文・古代の早田北遺跡や古代の早田西、仲田、村松三百刈遺跡などが所在する。丘陵裾にある滝谷前山遺跡では土師器が採集されている。滝谷蛇山遺跡の周辺の沖積地では、自然堤防上やその縁辺に柿ノ木、舞台、高山西跡、白倉館跡などの古代・中世の遺跡が確認されている。下ノ坪遺跡は中世の古錢出土地である。

3 調査の結果

(1) 砂利採取計画地

遺跡の北端にあたる水田中に $2\text{ m} \times 4\text{ m}$ のトレンチを2箇所設定した。遺構・遺物ともになかった。

(2) 宅地造成計画地

推定されていた遺跡範囲の東側半分を含む範囲が今回の調査対象地である。調査トレンチは $2\text{ m} \times 4\text{ m}$ を基本としたが、耕作による制約や土の堆積状況などから小さく掘削したトレンチも少くない。

いずれのトレンチでも遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。畑部分におけるトレンチにおいては現代のものと見られる陶磁器片が数点混入していたが、水田部分のトレンチでは何もなかった。調査前や確認調査中に表面採集を試みたが、現代陶器の破片以外は全く見つからなかった。

(3) 土層序（第14図）

I層は暗褐色土で、水田耕作土のa層と畑耕作土のb層とに分けられる。Ia層はやや粘性があり、屑の下方が暗褐色～青灰色の粘土になっているトレンチもある。Ib層は粘性がない。II層は褐色砂とIb層の土とが混ざった層であるが、調査区の北部に設置したトレンチでは暗褐色土の比率が高く、南部のトレンチでは褐色砂の比率が高い傾向がある。II層からは現代陶磁器の破片やビニールロープなどが出土することもあり、盛土又は耕作によって搅乱されている層である可能性がある。なお、地元の調査作業員から「昭和30年ごろに遺跡周辺の畑で耕地整理を実施し、削平や盛土をしたところがある。」という話があったが、耕地整理の実施箇所や掘削・盛土の規模などの詳細は不明である。

III層は褐色～灰褐色砂層で、砂の粒子は細かい。IV層は近接したトレンチでも厚さが著しく異なることがある。その下のV層は粗い粒子の砂で、灰色～青灰色の砂の層である。直径3cmほどから人頭大ほどの礫がIII層やIV層に含まれることが多い。IV層の検出されるレベルは調査範囲の東ほど低くなる傾向がある。

宅地造成計画地における調査の際に、鉄塔の基礎や周辺の道路などを仮基準としてトレンチの現地表面と発掘到達面とをレベルで測量し、調査対象地の高低差を見た。標高については、仮基準と1/2,500地形図に記載されている周辺道路の標高の数値を参考にして算出したものである。

(4) まとめ

滝谷蛇山遺跡は、昭和54年の新潟県教育委員会による分布調査によって土師器・須恵器が表採されている平安時代の遺跡である。今回の確認調査では遺物は全く出土せず、遺構も検出されなかことから、今回の調査対象地には遺跡が広がらないと考えられ、遺跡範囲がこれまでの約半分に狭まった。昭和30年頃の耕地整理により遺跡の一部が既に削平されたおそれもあるが、今後は残りの西側部分における遺跡の広がりの確認が必要であろう。

・渕谷蛇山遺跡確認調査概要表

トレンチ	規模 (東西×南北)	深度 (cm)	遺物	遺構	備考	トレンチ	規模 (東西×南北)	深度 (cm)	遺物	遺構	備考
砂利採取	1 4 m × 2 m	120	なし	なし		宅地造成	29 2 m × 1.5m	30	なし	なし	
	2 4 m × 2 m	35	なし	なし	褐色砂層途中で調査終了	30 2 m × 1.5m	15	なし	なし		
宅地造成	1 2 m × 4 m	60	なし	なし		31 4 m × 2 m	35	なし	なし	II層中から現代陶器片出土	
	2 2 m × 4 m	30	なし	なし		32 2 m × 4 m	30	なし	なし		
	3 2 m × 4 m	50	なし	なし		33 2 m × 4 m	36	なし	なし	II層中から現代磁器片出土	
	4 4 m × 2 m	25	なし	なし		34 2 m × 4 m	60	なし	なし	II層中から現代磁器片出土	
	5 4 m × 2 m	30	なし	なし	深さ55cmまで 掘削	35 2 m × 1.5m	35	なし	なし		
	6 4 m × 2 m	60	なし	なし		36 2 m × 1.5m	35	なし	なし		
	7 4 m × 2 m	51	なし	なし		37 2 m × 1.5m	65	なし	なし		
	8 4 m × 2 m	95	なし	なし		38 2 m × 1.5m	49	なし	なし	II層上面でハサ木根 根出。II層中で終了	
	9 4 m × 2 m	35	なし	なし	IV層上面東へ傾斜 (深さ75cm)	39 2 m × 1.5m	41	なし	なし	II層上面でハサ木根 根出。II層中で終了	
	10 4 m × 2 m	35	なし	なし	IV層上面東へ傾斜 (深さ80cm)	40 2 m × 1.5m	179	なし	なし		
11 4 m × 2 m	70	なし	なし		41 2 m × 1.5m	150	なし	なし			
12 4 m × 2 m	85	なし	なし		42 2 m × 1.5m	195	なし	なし			
13 4 m × 2 m	100	なし	なし		43 2 m × 1.5m	165	なし	なし			
14 1.5m × 4 m	56	なし	なし		44 2 m × 1.5m	140	なし	なし			
15 4 m × 2 m	45	なし	なし	II層中から現代 磁器片出土	45 2.5m × 1.5m	20	なし	なし			
16 4 m × 2 m	29	なし	なし	II層中から現代 陶器片出土	46 2.5m × 1.5m	60	なし	なし			
17 3 m × 1.5m	57	なし	なし		47 2.5m × 1.5m	30	なし	なし			
18 3 m × 1.5m	36	なし	なし		48 2 m × 1.5m	22	なし	なし			
19 3 m × 1.5m	50	なし	なし		49 2 m × 1.5m	70	なし	なし			
20 3 m × 1.5m	94	なし	なし		50 2 m × 1.5m	80	なし	なし			
21 3 m × 1.5m	60	なし	なし	IV層上面東へ傾斜 (深さ101cm)	51 2 m × 1.5m	175	なし	なし			
22 3 m × 1.5m	50	なし	なし		52 4 m × 2 m	-	なし	-	震災で中断		
23 3 m × 1.5m	60	なし	なし		53 2 m × 4 m	45	なし	なし			
24 3 m × 1.5m	22	なし	なし		54 2 m × 4 m	-	なし	-	震災で中断		
25 3 m × 1.5m	41	なし	なし		55 2 m × 4 m	-	なし	-	震災で中断		
26 3 m × 1.5m	82	なし	なし		56 2 m × 4 m	-	なし	-	震災で中断		
27 3 m × 1.5m	15	なし	なし		57 2 m × 1.5m	105	なし	なし			
28 3 m × 1.5m	65	なし	なし		58 2 m × 1.5m	145	なし	なし			

報告書抄録

ふりがな	ながおかしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	長岡市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	雉子打場遺跡・羽黒窯跡・滝谷蛇山遺跡							
巻次数								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	駒形敏朗・鳥居美栄							
編集機関	長岡市教育委員会							
所在地	〒940-0072 長岡市柳原町2-1							
発行年月日	2005年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きじうしばいせき 雉子打場遺跡	ながおかしふか さわまちあざう えのやま 長岡市深沢町 字上の山	1 5 2 0 2	2 5	37°24'29"	138°46'20"	2004年 9月21日～ 10月13日	3 0 4	市道建設 計画
はぐろかまあと 羽黒窯跡	ながおかしふか さわまちあざは ぐろ 長岡市深沢町 字羽黒		7 7	37°24'39"	138°46'30"			
たかやへじやまいせき 滝谷蛇山遺跡	ながおかしたき やまちあごこし んでん・あらえ じま 長岡市滝谷町 字古新田・新 江島		2 1 0	37°21'53"	138°50'08"	2004年 9月29日 10月12日～ 10月22日	3 3 4	土砂採取 ・ 住宅団地 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
雉子打場遺跡	集落跡	縄文時代中期	縄文時代 ビット	10基	縄文土器 880点 磨製石斧 4点 磨石 14点 石皿 4点			



雉子打場遺跡近景（北から）



雉子打場遺跡近景（北東から）



発掘風景



パワーシャベルでの埋め戻し風景



11G 遺物出土状況



11G 繩文土器出土状況



11G 遺構発掘後の状況



10G 完掘状況

写真1 雉子打場遺跡確認調査



調査対象地近景（南から）



調査対象地近景（北東から）



発掘風景



発掘風景



3 G 完掘状況



6 G 完掘状況



11 G 完掘状況



14 G 完掘状況

写真 2 羽黒窯跡確認調査

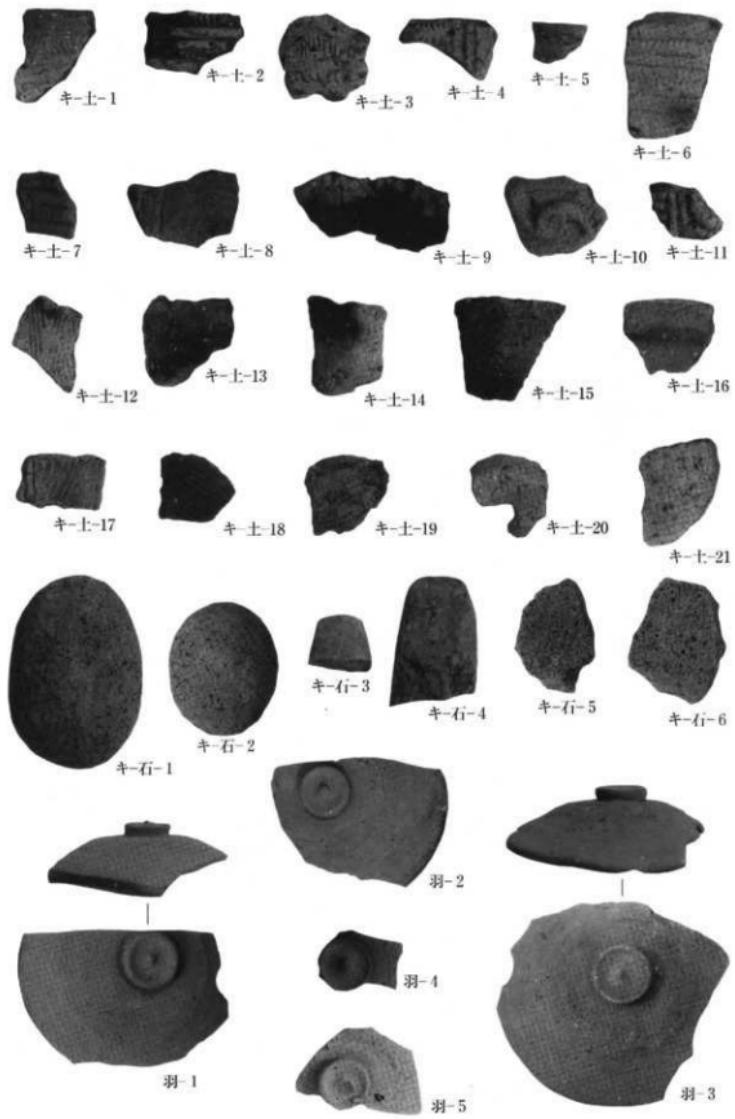


写真3 雄子打場遺跡・羽黒空跡（1）の遺物

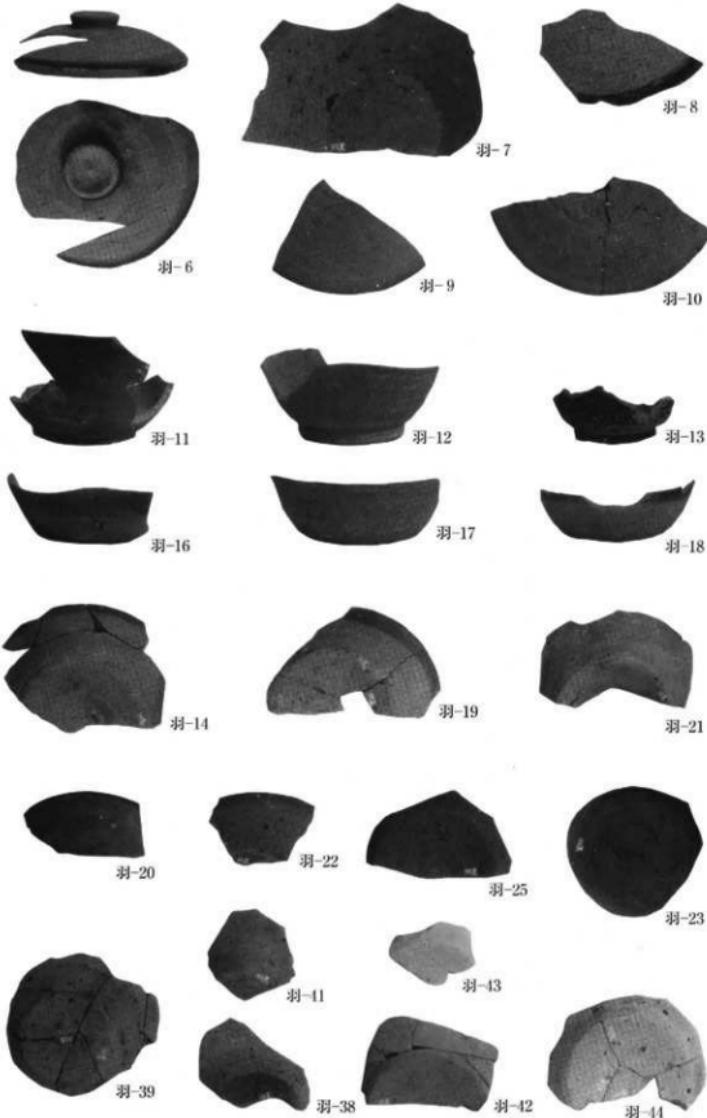


写真4 羽黒窯跡の遺物（2）

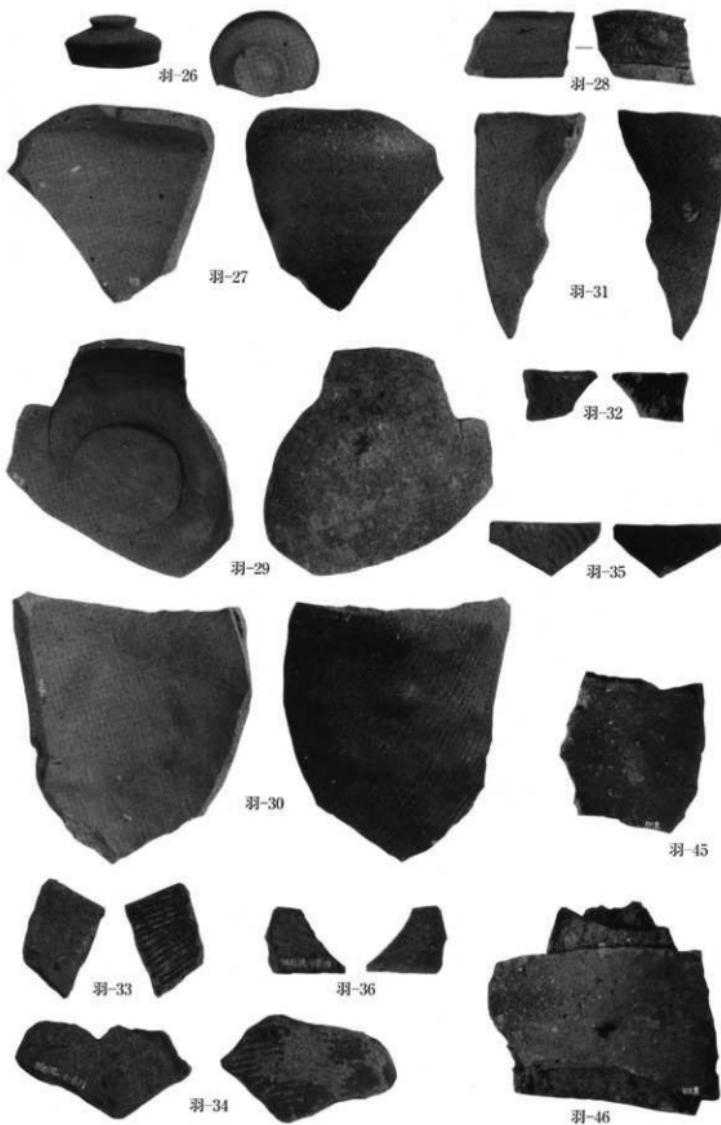


写真5 羽黒窓跡の遺物（3）



調査対象地遠景（北東側から）



調査対象地近景（北東側から）



発掘風景



発掘風景



14T 完掘状況



31T 完掘状況



11T 完掘状況



42T 完掘状況

写真 6 深谷蛇山遺跡確認調査

長岡市内遺跡発掘調査報告書

雉子打場遺跡

羽黒窯跡

澁谷蛇山遺跡

平成17年3月25日発行

発行：長岡市教育委員会 印刷：第一印刷所
